参考資料1

福島県「県民健康調査」甲状腺検査

検査のメリット・デメリット

甲状腺検査の対象となる方及び保護者の方は、本冊子をお読みになり、甲状腺検査のメリット・デメリットをご理解いただいたうえで、受診に対する同意・不同意をお決めください。

メリット・デメリットについては、
動画でもご視聴いただけます。

目　次

○県民健康調査 甲状腺検査について …… 1

○補足説明 …… 2

○これまでの検査結果 …… 3

○県民健康調査 甲状腺検査について（簡易版） …… 5

○県民健康調査 甲状腺検査について（中学生向け） …… 6

●お問い合わせ先

「甲状腺検査、検査のメリット・デメリット」に関するご質問は、以下の連絡先までお問い合わせください。

福島県立医科大学 放射線医学県民健康管理センター

コールセンター 024-549-5130（9:00～17:00 土日・祝日・12/29～1/3を除く）

メールアドレス：kenkan@fmu.ac.jp　　※おかけ間違いのないようご注意ください。

福　島　県
福島県立医科大学

R8.3月発行

県民健康調査　甲状腺検査について

超音波診断装置（エコー）を用いた甲状腺検査については、メリットのみならずデメリットも指摘されています。そのため、放射線被ばくと関連のない一般成人に対する甲状腺の超音波検診は行われてきませんでした。福島県及び福島県立医科大学では、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響で甲状腺がんが増加するのではないかとの懸念に対応するため甲状腺検査を開始しています。甲状腺検査を受診することにもメリットとデメリットがあることが考えられており、「県民健康調査」検討委員会及び甲状腺検査評価部会で検討した項目を表記しましたので、検査同意確認書に記入される際の参考としていただければ幸いです。

〈甲状腺検査のメリット・デメリット〉

●メリット

（1）　検査で甲状腺に異常がないことが分かれば、放射線の健康影響を心配している方にとって、安心とそれによる生活の質の向上につながる可能性があります（→ 補足説明①）。

（2）　早期診断・早期治療により、手術合併症リスクや治療に伴う副作用リスク、再発のリスクを低減する可能性があります（→補足説明②③④）。

（3）　甲状腺検査の解析により放射線影響の有無に関する情報を本人、家族はもとより県民および県外の皆様にもお伝えすることができます。

●デメリット

（1）　将来的に症状やがんによる死亡を引き起こさないがんを診断し、治療してしまう可能性があります（→補足説明③）。

（2）　がんまたはがん疑いの病変が早期診断された場合、治療や経過観察の長期化による心理的負担の増大、社会的・経済的不利益が生じる可能性があります。

（3）　治療を必要としない結節（「しこり」）やのう胞も発見されることや（→補足説明⑤）、結果的に良性の結節であっても二次検査や細胞診を勧められることがあるため、体への負担、受診者やご家族にご心労をおかけしてしまう可能性があります。

上記デメリットに対して以下の取り組みを行っています。

◆デメリット（1）に対して

甲状腺検査では、5.0㎜以下の結節は二次検査の対象としないことや、5.1㎜以上の結節についても日本乳腺甲状腺超音波医学会のガイドラインに従って結節の画像所見を判断材料に加えて穿刺吸引細胞診を実施するかどうかを判断することによって、治療の必要性が低い病変ができるだけ診断されないよう対策を講じています。

◆デメリット（2）に対して

福島県では県民健康調査甲状腺検査サポート事業を行っており、甲状腺検査後の治療や経過観察に必要な医療費のサポートを行っています。

◆デメリット（2）（3）に対して

福島医大などでは、二次検査受診者の方には、心のケア・サポートチームの専門スタッフにより、皆様の不安に寄り添う対応をしています。また、甲状腺検査結果や甲状腺の疾患に関連した医学的な質問やこころの問題等に答えるための医学専用ダイヤルでの相談対応や、学校等に出向いての説明会なども実施しています。

●補足説明

① 福島県の本格検査（検査5回目）の実績では、受診者の1.2%の方が精密検査（二次検査）をお勧めするB判定を受けましたが、残りの98.8%の方は、二次検査の必要がありませんでした。次頁の「これまでの検査結果」をご参照ください。

なお、令和7年3月31日現在、25歳時の節目検査では受診者の5.6%、30歳時の節目検査では受診者の8.8%の方がB判定となっており、年齢に伴い変化することが示されています。

② 日本では進行したがん以外に対しては切除範囲を限定した手術が選択されているため、手術による合併症は欧米より少ないことが知られています。

日本全体ではありませんが、福島県立医科大学附属病院（以下「福島医大」という。）で手術された220名の小児から若年成人の甲状腺がん症例とチョルノービリ（チェルノブイリ）事故後ベラルーシの甲状腺がん症例の比較を例示しますと次のとおりです。

こうじょうせん き のうてい か しょう
甲状腺機能低下症の割合（8.7% 対 57.6%）注

ふくこうじょうせん き のうてい か しょう
副甲状腺機能低下症の割合（0.9% 対 12.3%）

はんかいしんけい ま ひ
反回神経麻痺の割合（0.5% 対 6.8%）

*（ ）内の数値は前が福島医大、後ろがベラルーシの値です。
注：125症例時のデータ。

③ 自覚症状等で発見される前に、超音波検査によって、甲状腺がんを発見することにより、がんによる死亡率を低減できるかどうかは、科学的に明らかにされていません。

④ 甲状腺がんは一般的に進行が遅く、死亡率が低いとされています。進行した状態で発見された場合を除き、治療で治ることが多いがんです。

治療は手術が中心ですが、小さいがんの場合、手術をしないで様子を見ることもあります。

⑤ 5.0㎜以下の結節や20.0㎜以下ののう胞はA2判定となります。先行検査では47.8%、本格検査（検査5回目）では 70.0%がA2判定を受けています。

なお、A2判定の方は二次検査の必要はありません。

のう胞は「中に液体がたまった袋状のもの」で、健康な方にも見つかることの多い良性のものです。のう胞の中は液体だけで細胞がないため、がんになることはありません。

結節は「しこり」とも呼ばれ、甲状腺の細胞の密度が変化したものです。結節には良性と悪性（がん）があり、多くは良性です。

■これまでの検査結果

○先行検査から本格検査(検査5回目)までの結果に対する評価について

令和7年7月「第25回甲状腺検査評価部会」において、先行検査から本格検査(検査5回目)の結果についての見解がまとめられ、同月の「第56回「県民健康調査」検討委員会」に以下のとおり報告されました。

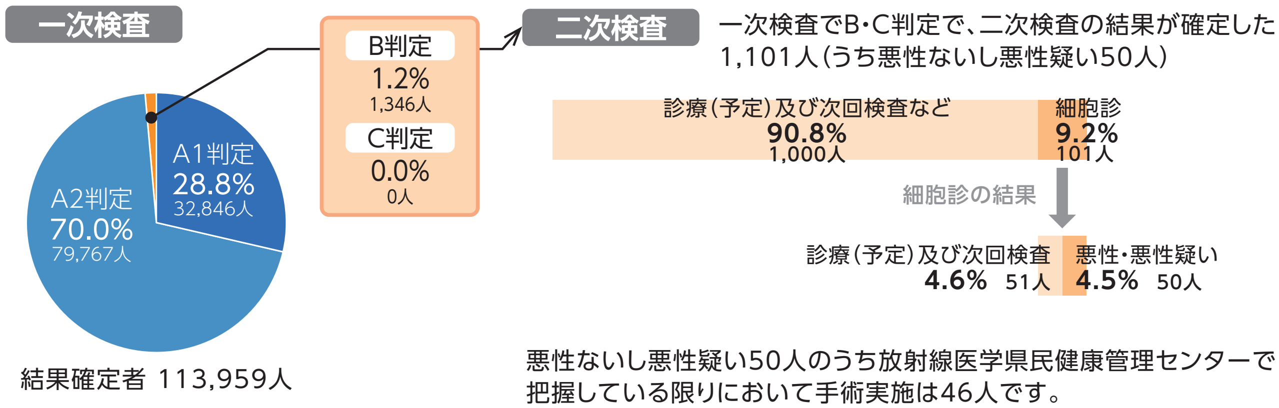
> これまでの解析結果のまとめとして、
> - 「被ばく線量と先行検査から検査5回目までの悪性ないし悪性疑い発見率との関連において、被ばく線量の増加に応じて発見率が上昇するといった一貫した関係(線量・効果関係)は認められなかった。
>   よって、先行検査から検査5回目までにおいて、甲状腺がんと放射線被ばくの間の関連があるとは認められなかった。」
> - 「検査4回目までのまとめより多角的・重層的な解析を行うことができたことを踏まえると、検査4回目までのまとめの段階より明確であると言える。」

また、今後の検査については、「検査の利益や不利益はもとより、今回のまとめで得られた評価や知見を分かりやすく周知するなど、県民が十分な情報に基づいた意思決定ができる形で検査を実施すべきである。」との見解も示されました。

出典　第56回「県民健康調査」検討委員会　資料5-2

本格検査(検査5回目)(実施年度:令和2年度~4年度)

出典　第55回「県民健康調査」検討委員会
資料2-1(令和6年12月31日現在)から作図



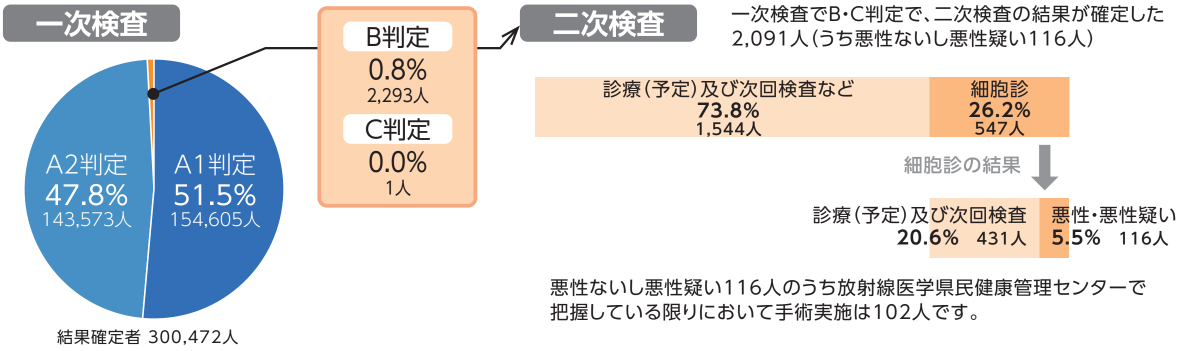
悪性ないし悪性疑い50人のうち放射線医学県民健康管理センターで把握している限りにおいて手術実施は46人です。

【判定結果の説明】

A判定	A1	結節やのう胞を認めなかったもの。
	A2	5.0㎜以下の結節や20.0㎜以下ののう胞を認めたもの。
B判定		5.1㎜以上の結節や20.1㎜以上ののう胞を認めたもの。
C判定		甲状腺の状態等から判断して、直ちに二次検査を要するもの。

先行検査（実施年度：平成23年度～25年度）

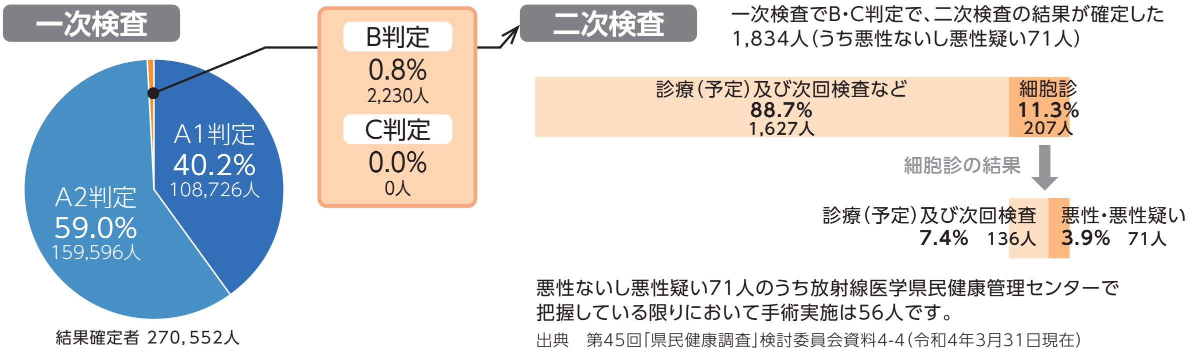
出典　第31回「県民健康調査」検討委員会
資料3-1（平成30年3月31日現在）から作図



悪性ないし悪性疑い116人のうち放射線医学県民健康管理センターで把握している限りにおいて手術実施は102人です。

本格検査（検査2回目）（実施年度：平成26年度～27年度）

出典　第42回「県民健康調査」検討委員会
資料5-2（令和3年3月31日現在）から作図

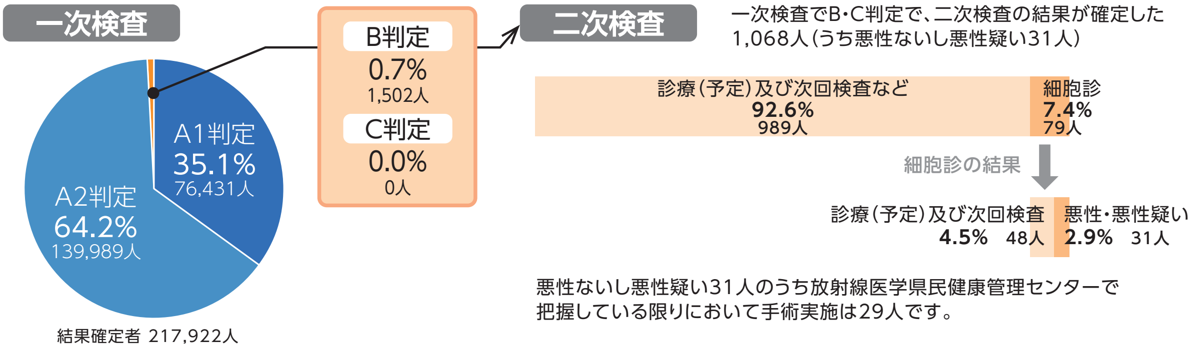


悪性ないし悪性疑い71人のうち放射線医学県民健康管理センターで把握している限りにおいて手術実施は56人です。

出典　第45回「県民健康調査」検討委員会資料4-4（令和4年3月31日現在）

本格検査（検査3回目）（実施年度：平成28年度～29年度）

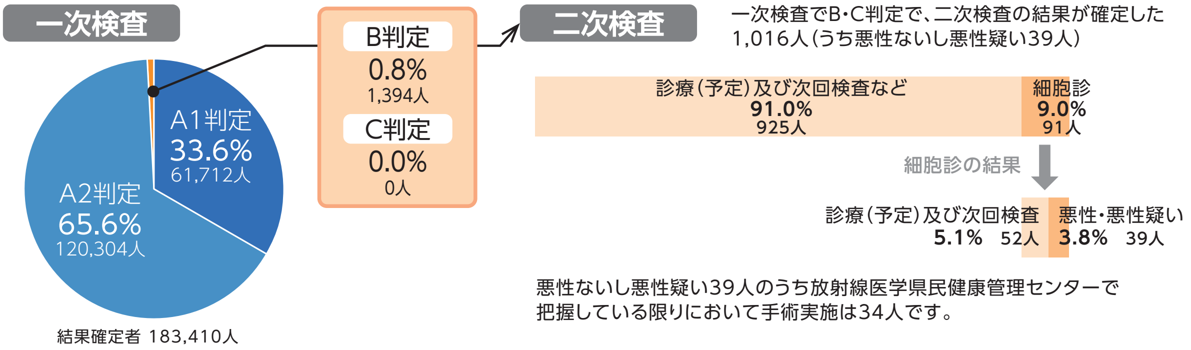
出典　第42回「県民健康調査」検討委員会
資料5-3（令和3年3月31日現在）から作図



悪性ないし悪性疑い31人のうち放射線医学県民健康管理センターで把握している限りにおいて手術実施は29人です。

本格検査（検査4回目）（実施年度：平成30年度～令和元年度）

出典　第46回「県民健康調査」検討委員会
資料1-1（令和4年6月30日現在）から作図



悪性ないし悪性疑い39人のうち放射線医学県民健康管理センターで把握している限りにおいて手術実施は34人です。

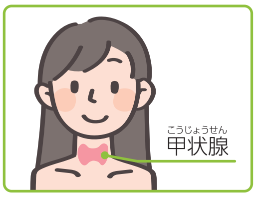
【判定結果の説明】

A判定	A1	結節やのう胞を認めなかったもの。
	A2	5.0㎜以下の結節や20.0㎜以下ののう胞を認めたもの。
B判定		5.1㎜以上の結節や20.1㎜以上ののう胞を認めたもの。
C判定		甲状腺の状態等から判断して、直ちに二次検査を要するもの。

県民健康調査 甲状腺検査について

福島第一原子力発電所の事故のため甲状腺がんが増えるのではないかと、心配する人も多かったので、福島県と福島県立医科大学が中心となって甲状腺検査がはじまりました。甲状腺検査は、甲状腺を超音波（きこえない音）で調べる検査です。しかし、甲状腺検査を受けることにもメリット（よい点）だけでなく、デメリット（わるい点）があることも考えられています。甲状腺検査は、希望する人が受ける検査です。このお知らせ文を甲状腺検査を受けるかどうかを決めるために役立ててください。

「甲状腺がん」ってどんな病気？



はじめは自分で気づく症状はありません。甲状腺がんが大きくなると、のどがはれたり、飲みこみにくくなったりすることがあります。この病気は進み方がゆっくりで命にかかわる場合はとても少ないと言われています。超音波を使って検査すると、症状のない甲状腺がんも見つかります。

甲状腺がんの多くは手術をして治しますが、まずは手術をしないで様子を見る場合もあります。手術した人の多くは手術前と同じ生活を送っています。

甲状腺検査を受けることには、メリット（よい点）とデメリット（わるい点）があります。
検査を受けるかどうかをおうちの人と相談してください。

メリット（よい点）

- 甲状腺がんを心配している人にとって、検査を受けて大丈夫だったら安心できるかもしれません。
- 隠れていた病気が早く見つかり、治療を早く始めることができます。
- 福島県で甲状腺がんが増えるのかどうかを調べて、みなさんにお知らせすることができます。

デメリット（わるい点）

- 一生自分で気づく症状がなく、体に問題のない甲状腺がんを見つけてしまうことがあるかもしれません。
- 甲状腺がんが見つかったときや疑われたときには、定期的に病院に通わなければならなくなることがあります。
- 検査結果が本当は心配ない場合でも実は病気ではないかと心配になることがあります。

この検査ではデメリット（わるい点）を減らすために次のような取り組みを行っています。

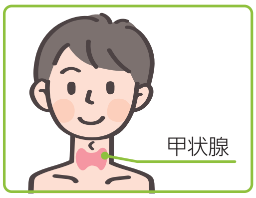
- 甲状腺検査では治療の必要のない病気は、なるべく診断しないようにしています。
- 検査でわからないことや不安や心配なことは、検査の時や電話などで相談できます。

県民健康調査 甲状腺検査について

福島第一原子力発電所の事故の影響で甲状腺がんが増えるのではないかと、心配する人も多かったので、福島県と福島県立医科大学が中心となって甲状腺検査が始まりました。

甲状腺検査は、甲状腺を超音波（きこえない音）で調べる検査です。しかし、甲状腺検査を受けることにもメリットだけでなく、デメリットがあることも考えられています。甲状腺検査は、希望する人が受ける検査です。このお知らせ文を甲状腺検査を受けるかどうか決めるための参考にしてください。

甲状腺がんの特徴



甲状腺がんは、最初、自覚症状はありません。しかし、病変が大きくなると、のどがはれたり、飲み込みにくくなったりすることがあります。普通は進行が遅く、死亡率は低いと言われています。超音波検査では、症状のない甲状腺がんも見つかります。

甲状腺がんの多くは手術により治療を行いますが、まずは経過観察をしてすぐには手術をしないで様子をみる場合もあります。手術をしても多くの人は手術前と同じ生活を送っています。

甲状腺検査を受けることには、メリットとデメリットがあります。
検査を受けるかどうか、ご家族と相談してください。

メリット

- 検査で異常のないことがわかれば、放射線による健康への影響を心配している人にとっては、安心できる可能性があります。
- 早めの診断・治療により、合併症や副作用、再発の可能性などを低くすることができます。
- 甲状腺検査を行うことで、放射線の影響の有無に関する情報を本人、家族はもとより、県内外の人たちにもお伝えすることができます。

デメリット

- 将来、日常生活や命に影響を及ぼすことのないがんを発見し、治療する可能性があります。
- がん、がんの疑いが早期にわかった場合、治療や診療期間の長期化により、普通の生活に支障をきたす可能性があります。
- 検査では、治療の必要のない結節やのう胞が発見されることがあります。また、二次検査等を勧められることにより本人や家族に対し、心配をかけてしまうことがあります。

この検査ではデメリットを減らすために次のような取り組みを行っています。

- 甲状腺検査では、治療の必要のない病変ができるだけ診断されないよう対策を講じています。
- 二次検査を受けた方の不安や心配には、必要に応じて心のケア・サポートチームの職員が、感じている不安などに寄り添う対応をしています。また、電話による相談にも応じています。